

京都大学大学院医学研究科

社会健康医学系専攻

遺伝カウンセラー・コーディネータ

ユニット

開講科目

平成21年度

シラバス

遺伝カウンセラー・コーディネータユニット開講科目

平成21年度 シラバス 目次

概要	3
授業科目一覧表	4
(前期)	
臨床研究概論	6
遺伝サービス情報学演習	8
遺伝医療と倫理	10
基礎人類遺伝学	12
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	14
(通年)	
遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論	16
遺伝カウンセリング演習 1・2	
(遺伝カウンセリング合同カンファレンス)	18
遺伝医療と社会(遺伝医療特論)	20
遺伝カウンセリング実習 1・2	22
臨床研究コーディネータ実習 1・2	25
(後期)	
臨床研究方法論	27
基礎人類遺伝学演習	29
遺伝医療と倫理 (演習)	31
臨床研究専門職のためのコミュニケーションスキル	33
臨床遺伝学演習(ロールプレイ演習)	35
医療倫理学概論	37

Ⅲ. 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

(<http://www.pbh.med.kyoto-u.ac.jp/html/dep6c.html>)

(1) 遺伝カウンセラー・コーディネータユニットの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療、新たな医薬品開発研究、再生医療をはじめとした先端医療研究に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。「遺伝カウンセラーコース」と「臨床研究コーディネータコース」の2つのコースを置く。

(2) 遺伝カウンセラー・コーディネータユニットの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が本ユニットの専任教員として着任している。社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育が行われる。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。終了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health;MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：両コースとも現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部、臨床試験管理室などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。臨床研究コーディネータコース：日本臨床薬理学、SoCRA(Society of Clinical Research Associates)による CRC 認定試験に合格できるレベルの教育を行う。

(3) 修了要件

科目		「医療系」 出身者*	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)		7	7
医学基礎 I・II、臨床医学概論		—	6
ユニット必修 (遺伝カウンセラー・コーディネータユニット共通科目)		2	2
コース必修	遺伝カウンセラーコース	2 9	2 9
	臨床研究コーディネータコース	1 4 (28)	1 4 (28)
選択科目	臨床研究コーディネータコース	3	
課題研究		4	4
合計	遺伝カウンセラーコース	4 2	4 8
	臨床研究コーディネータコース	3 0 (41)	3 3 (47)

臨床研究コーディネータの()は、推奨 A を含む場合

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部などの医療系学部の出身者

上記以外(医療系の短期大学及び生物系等学部出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学後に申請が必要となります。

(参考)課題研究：

遺伝カウンセラーコース：初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントのQOLの改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

臨床研究コーディネーターコース:テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、臨床研究の立案と実施、評価、倫理的側面、環境因子とインフラ構築などについてテーマを設定し研究を実施、とりまとめを行う。

平成21年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H005	疫学	○		中山教授	2	必修
コア領域 2	H001	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3		感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修
		環境衛生学	○		小泉教授	1	
コア領域 4		医療政策・マネジメント	○		今中教授	1	選択必修:推奨 A
		健康政策・行政管理学	○		中原教授	1	
		医薬品政策・行政		○	川上教授	1	CRC 必修
コア領域 5		行動科学	○		木原教授	1	選択必修:推奨 A
		基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	選択必修:推奨 A
		医学コミュニケーション(基礎)	○		岩隈准教授	1	選択必修:推奨 A
MPH 必修	H006	医学基礎 I	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007	医学基礎 II	○		岡講師	2	
	H008	臨床医学概論		○	教務委員会	2	
	N901 N902	課題研究 (遺伝カウンセラー) 課題研究 (臨床研究コーディネータ)	2 年次		所属分野の指導教員	4	
CCRC 必修	H039	臨床研究概論	1 年次		佐藤准教授	2	
GC 必修	H040	基礎人類遺伝学	1 年次		澤井准教授	2	
	H041	遺伝医療と倫理	1 年次		小杉教授	2	
	H044	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1 年次		澤井准教授	4	
	N001	遺伝サービス情報学演習	1 年次		沼部准教授	1	GC 限定
	N004	基礎人類遺伝学演習		1 年次	沼部准教授	2	GC 限定
	N005	遺伝医療と倫理 (演習)		1 年次	小杉教授	1	GC 限定
	N006	臨床遺伝学演習		1 年次	富和教授	1	GC 限定
	N013	遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論	1 年次		浦尾講師	4	GC 限定
	H048	遺伝医療と社会	1 年次 (隔週)		小杉教授	2	
	N007	遺伝カウンセリング演習 1	1 年次 (隔週)		富和教授・澤井准教授	2	合同カンファレンス
	N008	遺伝カウンセリング演習 2	2 年次 (隔週)		富和教授・澤井准教授	2	合同カンファレンス
	N009	遺伝カウンセリング実習 1	1 年次		小杉教授	2	GC 限定
N010	遺伝カウンセリング実習 2	2 年次		小杉教授	4	GC 限定	
GC 推奨	H009	社会疫学 I	○		木原准教授	2	
	H019	社会疫学 II		○	木原准教授	2	
	M022	ゲノム科学と医療		○	寺西教授・松田教授	2	
CRC 必修	H045	臨床研究方法論		1 年次	佐藤准教授	2	

	N014	臨床研究専門職のためのコミュニケーションスキル		1年次	佐藤准教授	1	
	H018	医療倫理学概論		1年次	小杉教授	2	
		医薬品の開発と評価		1年次	川上教授	1	
	H058	臨床試験の計画、解析と審査		1年次	川上教授	2	
	N011	臨床研究コーディネータ実習1		1年次	佐藤准教授	2	CRC 限定
	N012	臨床研究コーディネータ実習2		2年次	佐藤准教授	4	CRC 限定
CRC 推奨A (強く履修を 薦める科目)	H011	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H009	社会疫学 I	○		木原准教授	2	
		臨床試験学特論	○		樋之津准教授		
	H021	交絡調整の方法		○	大森准教授	2	
	H022	解析計画実習		○	大森准教授	2	
	H019	社会疫学 II		○	木原准教授	2	
CRC 推奨B	M014	創薬技術・ビジネス概論	○		田中教授	2	
	H040	基礎人類遺伝学	○		澤井准教授	2	
	H041	遺伝医療と倫理	○		小杉教授	2	
MPH 推奨		フィールドワーク I	○		中山教授	2	
		フィールドワーク II		○	中山教授	2	

※ GC = 遺伝カウンセラーコース CRC = 臨床研究コーディネータコース

H039 臨床研究概論

前期 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット必修・MPH 選択

授業日時:	火曜日 6 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	佐藤恵子(コースディレクター)、他招待演者
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	佐藤恵子 G棟205号、内線9491 E-mail: kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

本コースは、後期の「臨床研究方法論」とあわせて、臨床研究専門職だけでなく、臨床研究の企画・運営にかかわる人、臨床試験を支援する人など、臨床試験に携わるすべての人に必要な基本的事項を習得することを目的とする。

前期の「臨床研究概論」では、臨床研究の企画から審査・承認までの話題、後期の「臨床研究方法論」では、試験が開始されてから報告までの話題と先端研究の各論を扱う。

「臨床研究概論」では、臨床研究の必要性、臨床研究と薬害の歴史、臨床研究規制の発展の経緯、インフォームド・コンセントの概念と実際、自己決定の支援の実際、臨床研究に必要な条件について概説する。その上で、研究計画書のレビュー、説明文書の作成を実際に行う。また、臨床研究を実施している研究者ならびに患者団体の代表から実際の臨床上の問題点や課題を学ぶ。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- 臨床研究がなぜ必要か、実施する上で何が必要かを述べることができる
- 臨床研究をすすめる上で必須の方法論、倫理原則を学ぶ
- 日本の臨床研究の現状と問題点を学ぶ
- 臨床研究にかかわる人・組織の役割を理解する

III. 教育・学習方法

講義・討論形式、小グループによる討論形式

IV. 学習資源

- Robert J Levine. Ethics and Regulations of Clinical Research. Urban & Schwarzenberg, 1986.
- 椿 広計、藤田利治、佐藤俊哉編. これからの臨床試験: 医薬品の科学的評価—原理と方法. 朝倉書店, 1999

V. 学生に対する評価方法

議論への参加の積極性、小論文、出席等を総合的に判定

VI. その他メッセージ

・講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。

・臨床研究にかかわる方の聴講を歓迎しますが、ワークや課題をやっていただける人に限ります。8割以上の出席と課題の提出で、受講証明書をお渡しします。

コース予定・内容

第1回	4月14日	佐藤恵子	臨床研究の歴史
第2回	4月21日	佐藤恵子	薬害はなぜ繰り返したのか
第3回	4月28日	佐藤恵子	サリドマイドの復活と薬を世に出す条件を考える
第4回	5月12日	佐藤恵子	臨床研究の実施の条件を考える
第5回	5月19日	佐藤恵子	研究の規制とは
第6回	5月26日	佐藤恵子	日本の研究指針のありよう
第7回	6月2日	佐藤恵子	プロトコルとは何か
第8回	6月9日	佐藤恵子	インフォームド・コンセントとは何か
第9回	6月16日	佐藤恵子	ナイスな説明文書を書く
第10回	6月23日	佐藤恵子	自己決定の支援とは何か、対人援助論
第11回	6月30日	佐藤恵子	倫理審査委員会の機能と役割、問題点
第12回	7月7日	渡辺亨	がんの臨床研究の実際
第13回	7月14日	佐藤恵子	プロトコルを審査する
第14回	7月21日	坂下裕子	命といのちを見つめて

N001 遺伝サービス情報学演習

前期 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	水曜日 1 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	沼部博直(コースディレクター)
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	沼部博直 G棟 302 号, 内線 4648, E-mail: hnumabe@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

分子遺伝学・臨床遺伝学の急速な進歩に伴い, 新たな知見・情報が急速に得られている. このため, 遺伝カウンセリングの業務においては, 常に EBM に基づいた最新の情報を取得することが望まれている. 本演習ではパーソナルコンピュータの適確な操作, インターネットへの安全かつ効率的なアクセス法を基本として学んだ後, OMIM, GeneReviews など遺伝医学関連の各種データベースを用いた情報検索演習を行うことにより, 必要な情報にすばやくアプローチする手技を学ぶ.

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- パーソナルコンピュータの基本操作
- インターネットでの効率的情報検索, メール送受, 掲示板等の利用
- 遺伝医学関連情報データベースの効率的利用

III. 教育・学習方法

各自に割り当てられたノートPCを用いた演習

IV. 学習資源

ハンドアウトの配布

V. 学生に対する評価方法

ミニテスト

- 情報検索実習中に数回のミニテストを行い, それらを総合評価する.

VI. その他メッセージ

各自のノート PC を用いて実習を行うので, 毎回授業前にインターネットへの接続が可能な状態であることを確認しておくこと. また, 演習欠席した場合には, 当該実習項目については担当教員と連絡を取り, 必ず操作法を習得しておくこと.

コース予定・内容

第1回	4月8日	パーソナルコンピュータのセットアップ, ネット環境の設定
第2回	4月15日	情報科学概論, ネチケツならびにネットセキュリティ
第3回	4月22日	インターネット基本操作, メールの設定
第4回	5月13日	インターネットによる基本的情報検索法(1)
第5回	5月20日	インターネットによる基本的情報検索法(2)
第6回	5月27日	遺伝医学関連データベース総論(臨床第一講堂)
	6月3日	(休講)
第7回	6月10日	Word, Excel の基本的操作法
第8回	6月17日	OMIM の利用法
第9回	6月24日	GeneReviews の利用法
第10回	7月1日	UCSC 等のゲノムデータベースの利用法
第11回	7月8日	遺伝性疾患情報検索実習
第12回	7月15日	医学文献, 家族性腫瘍関連情報検索実習
第13回	7月22日	検索された遺伝情報の整理法, PowerPoint の基本的操作法
第14回	7月29日	(予備日)

H041 遺伝医療と倫理

前期 遺伝カウンセラーコース必修・MPH 選択

授業日時:	水曜日 2 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	小杉真司(コースディレクター) 澤井英明・沼部博直
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	小杉真司 G棟 310 号、内線4647 E-mail:kosugi@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。具体的なテーマとしては、生命・医療倫理の歴史、生殖医療、再生医療、インフォームド・コンセント、遺伝医療に関する国内外の規制、遺伝医療特有の倫理問題などを取り上げる。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本について理解する。

III. 教育・学習方法

講義形式を原則とする

IV. 学習資源

<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/idennet/idensoudan/guideline/guideline.html>

V. 学生に対する評価方法

試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する。

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。

遺伝カウンセラーコース以外の院生にとっては、専門的すぎる可能性があるが、それを了解した上での受講であれば歓迎する。

コース予定・内容

第1回	4月8日	小杉	遺伝医療総論	遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える
第2回	4月15日	小杉	ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドラインについて	研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える
第3回	4月22日	小杉	企業による遺伝子解析について	遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える。
第4回	5月13日	小杉	遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義	臨床的に行われる遺伝学的検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題について考える。遺伝子診断の意味とその問題点について、発端者・血族における違いを明確にしながらかえる。
第5回	5月20日	小杉	発症前遺伝子診断・について	発症前遺伝子診断・易罹患者診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながらかえる
第6回	5月27日 (臨床第一講堂)	小杉	遺伝医療に関するガイドラインについて	関連する種々のガイドラインに関する復習
第7回	6月3日	小杉	多因子疾患易罹患者診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について	遺伝学的検査については A(Analytical Validity), C(Clinical Validity), C(Clinical Utility), E(Ethical, Legal and Social Implications)が重要である。特に、多因子疾患においては今後の研究によるその確立が必要である。そのためにはゲノムコホートによる長期的な取り組みが必要である。
第8回	6月10日	澤井	出生前診断	出生前診断の倫理的問題について理解する
第9回	6月17日	小杉	キャリア診断・保因者診断について	常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える
第10回	6月24日	沼部	小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾	例えば、ダウン症の診断をどのように告げるのか？ 診断に代諾が必要な場合の倫理問題について理解する
第11回	7月1日	澤井	生殖補助医療	不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題点について詳細に検討する
第12回	7月8日	沼部	生命倫理観の多様性	患者やクライアントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える
第13回	7月15日	小杉	総合討論	受講者からの質問事項等を参考にしながら、総合討論を行う。
第14回	7月22日	沼部	テスト	筆記試験
	8月12日	沼部	再試	筆記試験

H040 基礎人類遺伝学

前期 遺伝カウンセラーコース必修・MPH 選択

授業日時:	水曜日 3時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	澤井英明(コースディレクター) 富和清隆・小杉真司・沼部博直
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	澤井英明: G 棟 205 号、内線 9496 E-mail: sawai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp 富和清隆: G 棟 211 号、内線 9490 E-mail: tomiwa@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセラーとしての最も基本的な事項について理解するための講義である。臨床研究コーディネータとしても、今後遺伝情報を治療に役立てていくテーラーメイド医療のために理解することが望ましい。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。

III. 教育・学習方法

講義形式

IV. 学習資源

- 遺伝医学への招待(南江堂)ISBN:4895923797
- 一目でわかる臨床遺伝学(MEDSI) ISBN:4895923797
- GeneReviews <http://www.geneclinics.org/>

V. 学生に対する評価方法

試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。遺伝カウンセラーコース以外の院生にとっては、専門的すぎる可能性があるが、それを了解した上での受講であれば歓迎する。

コース予定・内容

第1回	4月8日	沼部	メンデル遺伝総論・家系図の描き方	メンデル遺伝と非メンデル遺伝総論・常染色体と性染色体・対立遺伝子の概念・遺伝性疾患の概念の理解・家系図の描き方
第2回	4月15日	富和	常染色体優性遺伝	常染色体優性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation(次世代の表現促進現象)
第3回	4月22日	澤井	常染色体劣性遺伝	常染色体劣性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念
第4回	5月13日	澤井	X連鎖性遺伝	X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患
第5回	5月20日	澤井	分子遺伝学	遺伝子の構造と機能。遺伝子発現制御。
第6回	5月27日 (臨床第一講堂)4限	富和	遺伝的リスクの推定	再発確率の推定、ベイズの定理
第7回	6月3日	澤井	メンデル遺伝復習	遺伝性疾患の基本的な概念、メンデル遺伝の形式とメンデル遺伝病の復習。
第8回	6月10日	沼部	細胞遺伝学(1)	染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論
第9回	6月17日	小杉	遺伝学的検査(1)	遺伝子変異の検索方法:シーケンシング法、サザンブロット法
第10回	6月24日	沼部	細胞遺伝学(2)	染色体数的異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響
第11回	7月1日	小杉	遺伝学的検査(2)	変異のスクリーニング方法、変異と多型、変異の種類
第12回	7月8日	沼部	多因子遺伝、集団遺伝	多因子遺伝の概念、量的形質と易罹病性、薬理遺伝学とオーダーメイド医療、遺伝と環境因子、ハーディー ワインバーグの法則
第13回	7月15日	小杉	遺伝学的検査(3)	代表的な疾患の遺伝子検査のストラタジー、疾患の原因としての遺伝子の変化
第14回	7月22日	沼部	非メンデル遺伝(1)	ミトコンドリア遺伝、免疫遺伝学、形質遺伝学
第15回	7月29日	沼部	非メンデル遺伝(2)	エピジェネティクス、ゲノム刷り込み現象、片親性ダイソミー
第16回	8月5日	澤井	筆記試験	筆記試験(10:30-12:30)
	9月2日	澤井	再試験	筆記試験(10:30-12:30)

H044 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング

前期 遺伝カウンセラーコース必修・MPH 選択

授業日時:	水曜日 4,5時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	澤井英明(コースディレクター) 小杉真司・沼部博直・富和清隆・藤村聡・高橋政代・浦尾充子
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	澤井英明 G 棟 205 号、内線 9496 E-mail: sawai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、先天性代謝異常、多因子疾患などについて講義する。基本的には2時限連続講義。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝的問題について説明できる。また、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。

III. 教育・学習方法

講義形式

IV. 学習資源

- 一目でわかる臨床遺伝学(メディカルサイエンスインターナショナル)
- 遺伝カウンセリングマニュアル(福嶋義光編)
- GeneReview

V. 学生に対する評価方法

レポート、発表、出席等を総合的に評価

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。遺伝カウンセラーコース以外の院生にとっては、専門的すぎるので、それを了解した上での受講であれば歓迎する。

コース予定・内容

第1回	4月8日 4限	富和	イントロダクション	臨床遺伝学の歴史・遺伝子の時代の幕開け・遺伝カウンセリングと遺伝子診療、遺伝カウンセリングの概要
第2回	4月8日 5限	浦尾	遺伝カウンセリングの基本的な考え方	遺伝カウンセリングの体制とスタッフ、臨床心理と医療倫理的側面、心理学的な家系図の見方(ジェノグラム)
第3/4回	4月15日	富和	遺伝性神経疾患	遺伝性神経疾患 概念・病態・診断 :ウィリアムズ症候群・脊髄小脳変性症・ハンチントン病等の病態・診断・療育、遺伝カウンセリング
第5/6回	4月22日	富和	近親婚	近親婚の概念・遺伝的リスク・特定疾患、不特定の疾患発症リスクなどについて学び、遺伝カウンセリング上の問題を検討する。
第7/8回	5月13日	富和	筋ジストロフィー	概念・病態・診断 ドウシャンヌ型筋ジストロフィー、筋緊張性ジストロフィー、福山型筋ジストロフィーの遺伝カウンセリング
第9/10回	5月20日	小杉	家族性腫瘍(1)(2):家族性大腸がん	家族性腫瘍の概念・体細胞系列変異と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断。代表疾患としての家族性大腸ポリポーシスと遺伝性非腺腫性大腸癌、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ。
第11回	5月27日 3限	澤井 (臨床第一講堂)	生殖補助医療	歴史的背景・現状・具体的技術・法的規制・倫理問題とガイドライン常染色体異常症、遺伝カウンセリング
第12回	5月27日 5限	澤井 (G棟演習室)	出生前診断	現状・具体的技術・法的規制・倫理問題について学ぶとともに、遺伝カウンセリングの実際について学ぶ
第13/14回	6月3日	小杉	家族性腫瘍(3)(4):多発性内分泌腫瘍症他	家族性腫瘍の具体的疾患として、多発性内分泌腫瘍1型および2型を中心にとりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する
第15/16回	6月10日	沼部・澤井	常染色体異常	概念・病態・診断 数的異常と構造異常、遺伝カウンセリング、13,18,21トリソミーの診断治療と療育・生殖医療
第17/18回	6月17日	澤井・沼部	性染色体異常	病態・診断 具体的疾患:ターナー女性とクラインフェルター男性・病態・診断・治療と療育・生殖医療、遺伝カウンセリング
第19/20回	6月24日	澤井	不妊症・不育症(習慣流産)	不妊症と習慣流産 概念・病態・原因・治療・乏精子症による造精機能障害と転座型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と遺伝カウンセリング
第21回	7月1日 4限	藤村聡	遺伝性難聴	遺伝性難聴 概念・病態・遺伝形式・診断(症候性難聴と非症候性難聴)遺伝的異質性・治療と療育、遺伝カウンセリング
第22回	7月1日 5限	高橋政代	網膜色素変性	網膜色素変性症 概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療
第23/24回	7月8日	富和	先天性代謝異常	先天性代謝異常症 概念・病態・診断・新生児マススクリーニング 具体的疾患:フェニルケトン尿症・ムコ多糖症の病態・診断・治療、遺伝カウンセリング
第25回	7月15日 4限	藤村聡	内科系疾患	突然死、高血圧、糖尿病などの臨床遺伝学と遺伝カウンセリング
第26回	7月15日 5限	小杉	質疑と総合討論	網膜色素変性の遺伝カウンセリングの復習のほか、遺伝医学全般に関する質疑と総合討論をおこなう。
第27/28回	7月22日	沼部	先天異常症候群	先天異常症候群 概念・病態・診断 歌舞伎症候群・ヌーナン症候群・ブラダー・ウィリー症候群・マルファン症候群など。また、原因や遺伝性が明確でない例等の対応、遺伝カウンセリングについても考える。
第29回	7月29日	沼部	筆記試験	筆記試験 14:45-17:45
第30回	8月19日	澤井	再試験	筆記試験 10:30-13:00

N013 遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論

通年 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	木曜日5限(前期)・木曜1限(後期)
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	浦尾充子(コースディレクター)
教室:	G棟3階演習室
主担当教員連絡先:	浦尾充子、オフィスパワー(水、木、金) G棟205号、内線9492、E-mail: urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。授業の方法としては、講義により最低限必要と思われる概念と理論を学んだ上で、この領域は実践により得るところが特に大きいので、演習を実施する。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ 試行カウンセリング ディベート 心理テスト実習 ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- ① 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。
- ② 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。

III. 教育・学習方法

講義および演習(授業の進行状況に応じて、ロールプレイ 試行カウンセリング ディベート 心理テスト実習 ビデオ学習など様々な手法を用いる。)

IV. 学習資源

- ピーター・Gノートハウス/ローレル・Lノートハウス. ヘルス・コミュニケーション これからの医療者の必須技術(九州大学出版会)ISBN:487378561
- 五十嵐透子. 自分を見つめるカウンセリングマインド ヘルスケアワークの基本と展開 (医歯薬出版)ASIN4263234235
- 佐治守夫・岡村達也・保坂亨著. カウンセリングを学ぶ 理論・体験・実習(東京大学出版会)ISBN4130120301
- 配布資料 ・ その他参考図書

V. 学生に対する評価方法

前期・後期あわせて終了時に評価する。

出席40% レポート40% プレゼンテーションおよびテスト20%

VI. その他メッセージ

授業内容に関する個別質問歓迎。メールで予約の上、来室してください。

コース予定・内容

前期

第1回	4月9日	前期授業の概要
第2回	4月16日	安心感・安全感・信頼感
第4回	4月23日	カウンセリングマインド
第4回	4月30日	共感的理解
第5回	5月7日	ノンバーバルコミュニケーション
第6回	5月14日	バーバルコミュニケーション
第7回	5月21日	遺伝カウンセリング場面での医療コミュニケーションと自己評価法
第8回	5月28日	電話での対応
第9回	6月4日	インテーク面接とアセスメント
第10回	6月11日	医師面接の同席
第11回	6月18日	家族との面接
第12回	6月25日	関係機関・当事者団体の紹介
第13回	7月2日	チーム医療
第14回	7月9日	面接の終了・フォローアップ
第15回	7月16日	前期テスト

後期

第1回	10月1日	後期授業の概要
第2回	10月8日	医療における対人援助職のコミュニケーション
第4回	10月15日	インフォームドコンセントと自律的決定
第4回	10月22日	ライフサイクルとメンタルヘルス
第5回	10月29日	心の病気の理解
第6回	11月5日	喪失体験の理解
第7回	11月12日	障害者心理の理解
第8回	11月19日	危機介入理論
第9回	11月26日	防衛機制
第10回	12月3日	心理テスト—実習
第11回	12月10日	心理療法—基礎知識
第12回	12月17日	心理療法—実習
第13回	12月24日	心理療法—実習
第14回	1月14日	発表会
第15回	1月21日	後期テスト
	1月28日	(予備日)

N007 遺伝カウンセリング演習1(1年次)

N008 遺伝カウンセリング演習2(2年次)

(遺伝カウンセリング合同カンファレンス)

通年 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	第2、4金曜日 5、6時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	富和清隆(コースディレクター)・澤井英明(コースディレクター) 小杉真司・沼部博直・浦尾充子・玉置知子
教室:	G棟2階セミナー室A
主担当教員連絡先:	富和清隆: G棟 211号、内線9490、E-mail: tomiwa@pbh.med.kyoto-u.ac.jp 澤井英明: G棟 205号、内線9496、E-mail: sawai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、遺伝カウンセラー・コーディネータユニットにおける京都大学と近畿大学の合同プログラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。前期は、1回生の初学者を対象に、後半の時間に教育セッションを実施する。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。

III. 教育・学習方法

症例提示・討論、カンファレンス記録の作成(症例ごとに順番で担当)

IV. 学習資源

ハンドアウトの配布は、原則としてありません

V. 学生に対する評価方法

プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

VI. その他メッセージ

個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。

1) 合同カンファレンスの目的: 合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、ユニット内外の専門家の意見、討議を聞きそれに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。

2) プレゼンテーション: プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参

加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は10分以内(前半・後半をあわせて)、議論を10分程度とする。

3)スライド:議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半:タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)(1枚)、疾患理解のための説明(1枚)、相談の背景・主訴、家系図を含めて(2枚)。後半:相談経過(1枚)、課題・問題点(1枚)

4)進行:疾患について、クライアント受診背景を説明した時点で確認のための簡単な質問を受け、次に進む(発表者が忘れていれば司会者が調整)。遺伝カウンセリングの内容を説明した後で本来のディスカッションを行う。

5)アセスメントについて:質問や自分の意見、感想は全体の議論の話題になったら自分の意見として発言する。どうしても最初から出す必要がある場合は指導教官・同席医師と相談の上でおこなう。

6)終了後:ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医確認の後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファレンス終了1週間以内に)

コース予定・内容

第1回	4月10日	第二金曜	
第2回	4月24日	第四金曜	
第3回	5月8日	第二金曜	
	5月22日	第四金曜	日本遺伝カウンセリング学会のため休止
第4回	6月5日	第一金曜	(第1金曜だが、例外的に実施)
	6月12日	第二金曜	日本家族性腫瘍学会のため休止
第5回	6月26日	第四金曜	
第6回	7月10日	第二金曜	
第7回	7月24日	第四金曜	
第8回	8月7日	第一金曜	(第1金曜だが、例外的に実施)
	8月14日	第二金曜	夏休み
	8月28日	第四金曜	遺伝カウンセリングセミナーのため休止
第9回	9月11日	第二金曜	
	9月25日	第四金曜	日本人類遺伝学会のため休止
第10回	10月9日	第二金曜	
第11回	10月23日	第四金曜	
第12回	11月13日	第二金曜	
第13回	11月27日	第四金曜	
第14回	12月11日	第二金曜	
第15回	12月25日	第四金曜	
	1月8日	第二金曜	冬休み
第16回	1月22日	第四金曜	
第17回	2月12日	第二金曜	
第18回	2月26日	第四金曜	
第19回	3月12日	第二金曜	
	3月26日	第四金曜	春休み

H048 遺伝医療と社会(遺伝医療特論)

通年 遺伝カウンセラーコース必修・MPH 選択

授業日時:	第1・3・5金曜日 5・6時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	小杉真司(コースディレクター) 富和清隆・澤井英明・非常勤講師(田村、玉置)・招待演者
教室:	G棟2階セミナー室A
主担当教員連絡先:	小杉真司 G棟 310 号、内線4647 E-mail:kosugi@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセリングを行うためには、その社会的な基盤を理解する必要がある。社会福祉の基礎(歴史、社会保障、公的扶助、児童・母子福祉、障害者福祉、地域福祉、医療福祉)、社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基礎、保健医療福祉関連法規などについて講義する。また、各分野の専門家による遺伝医療特論を行う。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の原状について、様々な観点からの理解を得る

III. 教育・学習方法

講義形式

IV. 学習資源

ハンドアウトなど

V. 学生に対する評価方法

出席、討論への参加の積極性、レポート、発表等を総合的に評価する

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります

コース予定・内容

第1回	4月17日(第3)	福嶋義光	わが国における遺伝医療の動向 2009
第2回	5月1日(第1)	巽 純子	ダウン症—育ちと社会—
第3回	5月15日(第3)	水野誠司	先天異常症候群診断の意義
第4回	5月29日(第5)	樋野興夫	がん哲学&がん哲学外来—深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静—
	6月5日(第1)		(例外的に、合同カンファレンスを実施)
第5回	6月19日(第3)	渡辺淳	日本医科大学における遺伝診療 —異質性がある症候群から個別化医療—
第6回	7月3日(第1)	川目裕	遺伝医療における認定遺伝カウンセラーの役割
第7回	7月17日(第3)	内野真也	家族性甲状腺・副甲状腺疾患における診療と研究 の実際
	7月31日(第5)		(日本遺伝子診療学会のため休止)
	8月7日(第1)		(例外的に、合同カンファレンスを実施)
	8月21日(第3)		(家族性腫瘍セミナーのため休止)
	9月4日(第1)		(遺伝医学セミナーのため休止)
	9月18日(第3)		(夏休み)
第8回	10月2日(第1)	前田純子	SP(模擬患者)として大切なこと
第9回	10月16日(第3)	黒木良和	先天異常のメディカルケアと遺伝カウンセリング
第10回	10月30日(第5)4限	米本昌平	生命科学の時代と日本の課題(臨床第一講堂)
第11回	11月6日(第1)	田村和朗	癌医療と遺伝カウンセリング
	11月20日(第3)		(休講)
第12回	12月4日(第1)	玉置知子	兵庫医科大学の遺伝カウンセリングの現状
第13回	12月18日(第3)	吉田繁	遺伝医療の論文を英語で読み英語で書く
第14回	1月15日(第3)	南武志	イタイイタイ病の公害認定に係わった研究者たち
	1月29日(第5)		(休講)
第15回	2月5日(第1)	藤川和男	放射線と突然変異
第16回	2月19日(第3)	澤井英明	少子化対策(エンゼルプラン)などの政策について
第17回	3月5日(第1)	富和清隆	遺伝カウンセリングと日本人

N009 遺伝カウンセリング実習 1(1年次)

N010 遺伝カウンセリング実習 2(2年次)

通年 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	随時
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	小杉真司(コースディレクター) 富和清隆、澤井英明、沼部博直、浦尾充子
コースが行われる場所:	京都大学医学部附属病院遺伝子診療部・大阪市立総合医療センター・兵庫医科大学臨床遺伝部・同産婦人科など、下記学会・研修会会場など。
主担当教員連絡先:	小杉真司 G棟 310号, 内線 4647 e-mail:kosugi@kuhp.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、電話予約、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。

III. 教育・学習方法

実習(電話予約実習・準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる

IV. 学習資源

実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。

V. 学生に対する評価方法

実習への積極的な参加などを総合的に評価する。

VI. その他メッセージ

クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。

コース予定・内容

1年次の後半ころから遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習の availability から判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は

同席のみあるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて**症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。**類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1 ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をすようにつとめる。

- ・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部：月一金（コース全員で交代）
- ・大阪市立総合医療センター：月曜・火曜（1名が連続で）
- ・兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（2名）

その他、京大病院小児科養育外来・耳鼻科難聴外来などを予定している。

および電話予約受付および遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として全例に遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。

<症例記録の書き方の注意：抜粋>

1. ファイル名：カルテ番号＋短い疾患名＋受診日とする（例）999FAP060915
再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP061013-2
2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。
3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。
4. 時間（終了時間、所要時間）も入れる。
5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。

より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。

平成21年度の必須参加予定は下記の通りである。

5/22(金)–24(日)	日本遺伝カウンセリング学会(2回生発表必要)	兵庫医科大学
6/12(金)–13(土)	日本家族性腫瘍学会	秋葉原コンベンションセンター
6/20(土)–21(日)	遺伝カウンセリングリフレッシュセミナー	東京
7/30(木)–8/1(土)	日本遺伝子診療学会(2回生、演題発表者のみ)	ホテル札幌ガーデンパレス
8/20(木)–23(日)	家族性腫瘍カウンセラー養成セミナー＋遺伝カウンセラー養成セミナー	癌研有明病院
8/27(木)–30(日)	遺伝カウンセリングセミナー(実践)(1回生のみ)	東京
9/4(金)–6(日)	遺伝医学セミナー	三井ガーデンホテル(千葉)
9/24(木)–26(土)	日本人類遺伝学会	高輪プリンスホテル
11/28(土)	全国遺伝子診療部門連絡会議	兵庫医科大学
1/9(土)–10(日)	遺伝カウンセリングリフレッシュセミナー	東京

経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分

を目安とし、速やかに提出すること(最大 1 ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。

N011 臨床研究コーディネータ実習1(1年次)

N012 臨床研究コーディネータ実習2(2年次)

通年 臨床研究コーディネータコース限定必修

授業日時:	随時
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	佐藤 恵子 (コースディレクター) 漆原尚巳・招待演者
コースが行われる場所:	学内外の施設(国立がんセンター、北里大学、静岡がんセンター、京都大学医学部附属病院探索医療センター、同治験管理センターなど) 学外実習は臨床研究業務集中実習とする。
主担当教員連絡先:	佐藤恵子 G棟205号、内線9491 E-mail: kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

臨床研究の実際の現場に入る前のトレーニングとして、臨床研究の実施に必要な手続きを理解し、コーディネーション業務や情報提供ツール・要綱作りなどを経験することで基本的な知識と技術を習得する。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- 研究計画書をレビューし、意見を述べるができる
- 説明文書、被験者への情報提供ツール、データマネジメントに必要なツール、研究の運営に必要な要綱などを作ることができる
- 被験者への説明やモニタリングへの対応が適切にできる
- 研究事務局の運営、倫理委員会の運営に必要な手続きを述べるができる
- 研究の体制構築・運営のコーディネーションができる

III. 教育・学習方法

講義と演習

IV. 学習資源

配布資料(実習の手引き)など

V. 学生に対する評価方法

実習への積極的な参加と課題で評価する

VI. その他メッセージ

2年前期は、実習・見学が併行しますので、講義日程、内容については変更があります

<p>コース予定・内容</p>
<p><実習・見学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会参加、試験事務局見学 ・製薬企業、CRO、データセンター、第 I 相試験実施施設等の見学 ・インタビュー調査の見学
<p><講義・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究の体制の整備、臨床研究専門職の役割と業務 ・プロトコルの作成 ・プロトコルのレビュー ・説明文書の作成 ・情報提供ツールの作成 ・データや検体の取り扱い、秘密保持、CRF の設計 ・事務局業務、有害事象発生時の対応 ・倫理審査委員会の役割と審査の実際、チェック表づくり ・試験実施のためのコーディネーション、準備 ・インフォームドコンセントの実際、医療面接の基本 ・モニタリングの方法、治験での SDV の対応 ・検査の概要と検査値の読み方 ・試験運営・管理のための必須文書の作成
<p><傍聴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬害・医療過誤裁判
<p><学会等への参加></p> <p>CRC と臨床試験のあり方を考える会議(9 月:横浜):M1/M2 全員出席が必要 下記については、M1 はいずれか 1 件への出席を原則とする。 日本癌治療学会(10 月:横浜)、生命倫理学会(11 月ごろ)、薬剤疫学会(11 月:東京) 日本臨床薬理学会(11 月ごろ)</p>
<p><レポートの提出></p> <p>実習・学会に参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大 1 ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。佐藤恵子 (kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp) と小杉眞司 (kosugi@kuhp.kyoto-u.ac.jp) にもCCで送ること。</p>

H045 臨床研究方法論

後期 臨床研究コーディネータコース必修・MPH 選択

授業日時:	火曜日 6限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	佐藤 恵子 (コースディレクター) 辻 純一郎、下妻 晃二郎、他招待演者
コースが行われる場所:	G棟3階 演習室
主担当教員連絡先:	佐藤恵子 G棟205号、内線9491 E-mail: kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

本コースでは、臨床研究を実際に運営する際に必要な知識・スキルを習得することを目的とする。

具体的には、施設での臨床試験の運営に必要な手続きや標準操作手順書の策定、データ・マネジメントの実際、効果や毒性の評価方法、患者の対応の方法、臨床研究に必要な法律知識ならびに薬学の知識、健康アウトカムの評価と方法、リーダーシップ論について講義を行う。また、小児医療、疫学研究などについて、現状や課題を学ぶ。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- 臨床試験の流れの全体像を把握する
- 臨床研究の運営に必要な業務を理解する
- 臨床研究に必要な法律の知識を学ぶ
- 臨床研究に必要な薬に関する知識(薬理・薬剤・体内動態など)を学ぶ
- リーダーに必要な条件を学ぶ
- 先端医療や小児を対象にした研究の現状と問題点を説明できる

III. 教育・学習方法

講義・討論形式

IV. 学習資源

配付資料など

V. 学生に対する評価方法

議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定

VI. その他メッセージ

- ・講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります
- ・臨床研究にかかわる方の聴講を歓迎しますが、ワークや課題をやっていただける人に限ります。8割以上の出席と課題の提出で、受講証明書をお渡しします。

コース予定・内容

第1回	10月6日	佐藤恵子	臨床研究の流れを理解する
第2回	10月13日	佐藤恵子	プラセボ対照試験の問題点
第3回	10月20日	佐藤恵子	研究の運営と管理に必要なもの
第4回	10月27日	佐藤恵子	データ・マネジメント
第5回	11月10日	佐藤恵子	プロトコル・マネジメント
第6回	11月17日	佐藤恵子	患者のマネジメント
第7回	11月24日	辻純一郎	臨床試験に必要な法律知識①補償と賠償
第8回	12月1日	辻純一郎	臨床試験に必要な法律知識②被験者保護、守秘義務
第9回	12月8日	佐藤恵子	臨床試験に必要な薬の知識①有機化学・薬学概論
第10回	12月15日	佐藤恵子	臨床試験に必要な薬の知識②薬理学・薬剤学・薬物代謝学・臨床薬理学
第11回	12月22日	下妻晃二郎	健康アウトカムの評価
第12回	1月12日	佐藤恵子	リーダーシップとは、リーダーに必要なもの
第13回	1月19日	中村秀文	小児医療の研究の現状と問題点
第14回	1月26日	佐藤恵子	大規模疫学研究の現状と問題点

N004 基礎人類遺伝学演習

後期 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	水曜日 1・2 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	沼部博直(コースディレクター) 澤井英明・小杉真司・富和清隆・大橋博文・涌井敬子
コースが行われる場所:	G棟3階演習室 実験室
主担当教員連絡先:	沼部博直 G棟 302 号, 内線 4648 E-mail: hnumabe@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝カウンセラーとしての基礎知識となる遺伝子・染色体の分析について、実習を通じて現場を体験することにより、具体的に理解することを目的とする。染色体 G バンド・核型の識別, DNA 抽出, PCR, 家系図作成, 遺伝形式の推定, 遺伝的リスクの推定などについて、実験実習を行うほか、臨床の現場で行われる画像診断, 医学的フォローの実践についても学ぶ。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- 家系図作成, 遺伝形式推定, 再発確率計算を正確に行うことができる
- 遺伝学的検査の方法について具体的に理解し, 正確に説明することができる

III. 教育・学習方法

実験室実習を小グループ(遺伝カウンセラーコースのみ)で行う

IV. 学習資源

実習マニュアルをハンドアウトとして配布

V. 学生に対する評価方法

積極的な演習への参加, レポート, 発表, 出席等を総合的に評価する

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります

コース予定・内容

第 1 回	10 月 7 日	富和	遺伝的リスクの推定(1)	近親婚を含む, さまざまな家系における遺伝リスクの推定法.
第 2 回	10 月 14 日	沼部	家系図作成演習	家系図作成法, ならびに家系図作成ソフトウェアの紹介. 文章から家系図作成を行う演習.
第 3 回	10 月 21 日	富和	遺伝的リスクの推定(2)	ベイズの定理の応用を必要とする, さまざまな家系における遺伝リスクの推定法
第 4 回	10 月 28 日	沼部	遺伝形式の推定	さまざまな家系図を用いた遺伝形式の推定法の実習. 文章から家系図を作成し遺伝形式の推定にいたる実習も含む.
第 5 回	11 月 4 日	小杉	遺伝学的検査についての復習(1)	遺伝学的検査に関する検査原理・検査法に関する基礎知識の復習.
第 6 回	11 月 11 日	沼部	染色体検査についての復習	染色体検査の検査法ならびに検査の流れに関する基礎知識の確認.
第 7 回	11 月 18 日	小杉	遺伝学的検査についての復習(2)	遺伝学的検査における各種の診断パラメータを含めた情報提供を行うための必須知識の復習.
第 8 回	11 月 25 日	沼部・涌井	染色体検査実習	染色体標本の観察, 核型記載の実際, 染色体標本写真からの核板ソート実習
第 9 回	12 月 2 日	澤井	DNA 抽出	末梢血液からの DNA の抽出演習(安全性の確認されている教員の血液を使用), ならびに DNA 濃度の測定実習.
第 10 回	12 月 9 日	沼部・大橋	臨床染色体異常症診断	染色体標本写真からの染色体異常診断, 染色体異常症候群のフォローの実際
第 11 回	12 月 16 日	澤井	PCR	抽出 DNA を用いて, PCR を行い, 得られた増幅産物を泳動し画像化する.
第 12 回	1 月 6 日	(予備日)		
第 13 回	1 月 13 日	澤井	PCR-RFLP	PCR により得られた増幅産物の制限酵素多型を解析する.
第 14 回	1 月 20 日	澤井	シークエンスの結果	シークエンスにより得られた結果の解釈. ならびにホモロジーサーチの演習.
第 15 回	1 月 27 日	澤井・沼部	医用画像の診かた	レントゲン写真, CT 画像, 超音波画像などの診かたの基礎を学ぶ.

H041 遺伝医療と倫理

前期 遺伝カウンセラーコース必修・MPH 選択

授業日時:	水曜日 2 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	小杉真司(コースディレクター) 澤井英明・沼部博直
教室:	G 棟 3 階演習室
主担当教員連絡先:	小杉真司 G棟 310 号、内線4647 E-mail:kosugi@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。具体的なテーマとしては、生命・医療倫理の歴史、生殖医療、再生医療、インフォームド・コンセント、遺伝医療に関する国内外の規制、遺伝医療特有の倫理問題などを取り上げる。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本について理解する。

III. 教育・学習方法

講義形式を原則とする

IV. 学習資源

<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/idennet/idensoudan/guideline/guideline.html>

V. 学生に対する評価方法

試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する。

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。

遺伝カウンセラーコース以外の院生にとっては、専門的すぎる可能性があるが、それを了解した上での受講であれば歓迎する。

コース予定・内容

第1回	4月8日	小杉	遺伝医療総論	遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える
第2回	4月15日	小杉	ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドラインについて	研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える
第3回	4月22日	小杉	企業による遺伝子解析について	遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える。
第4回	5月13日	小杉	遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義	臨床的に行われる遺伝学的検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題について考える。遺伝子診断の意味とその問題点について、発端者・血族における違いを明確にしながら考える。
第5回	5月20日	小杉	発症前遺伝子診断・について	発症前遺伝子診断・易罹患者診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える
第6回	5月27日 (臨床第一講堂)	小杉	遺伝医療に関するガイドラインについて	関連する種々のガイドラインに関する復習
第7回	6月3日	小杉	多因子疾患易罹患者診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について	遺伝学的検査については A(Analytical Validity), C(Clinical Validity), C(Clinical Utility), E(Ethical, Legal and Social Implications)が重要である。特に、多因子疾患においては今後の研究によるその確立が必要である。そのためにはゲノムコホートによる長期的な取り組みが必要である。
第8回	6月10日	澤井	出生前診断	出生前診断の倫理的問題について理解する
第9回	6月17日	小杉	キャリア診断・保因者診断について	常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える
第10回	6月24日	沼部	小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾	例えば、ダウン症の診断をどのように告げるのか？ 診断に代諾が必要な場合の倫理問題について理解する
第11回	7月1日	澤井	生殖補助医療	不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題点について詳細に検討する
第12回	7月8日	沼部	生命倫理観の多様性	患者やクライアントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える
第13回	7月15日	小杉	総合討論	受講者からの質問事項等を参考にしながら、総合討論を行う。
第14回	7月22日	沼部	テスト	筆記試験
	8月12日	沼部	再試	筆記試験

N014 臨床研究専門職のためのコミュニケーションスキル

後期 臨床研究コーディネータコース必修・MPH 選択

授業日時:	原則として隔週(第2、第4)金曜日 3,4 限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	佐藤 恵子 (コースディレクター)
コースが行われる場所:	G棟3階 演習室
主担当教員連絡先:	佐藤恵子 G棟205号、内線9491 E-mail: kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

医療者は、患者の利益を最大にするために、患者の本音を探り、最善の医療を提供する必要がある。このため医療者には、対人援助論などの知識ならびに、患者の気持ちを共有すること、問題を把握して論理的に考えること、自分の考えを立ててわかりやすく表明すること、適切に人に動いてもらえるように算段することなどの能力が求められる。これらの能力の多くは、スキルとして習得することが可能である。本コースでは、プレゼンテーション、ディベート、コーチング、人のマネジメント、模擬患者とのセミナーなどを通じ、臨床研究専門職として必要なコミュニケーションの知識とスキルを習得することを目的とする。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

- 対人援助とは何かを述べることができる
- 患者・家族に何が必要かを述べることができる
- 自分の意見をわかりやすく表現し、有益なプレゼンテーションができる
- ディベートの技法を習得し、建設的な話し合いができる
- 人に動いてもらうときに必要な要素を述べるができる
- 患者と良好な関係を築き、適切に対応できる

III. 教育・学習方法

講義＋演習形式

ディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、ロールプレイ、模擬患者とのセッションなど

IV. 学習資源

配付資料など

V. 学生に対する評価方法

議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定

VI. その他メッセージ

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります

コース予定・内容

第1回	10月9日	佐藤恵子	患者・家族に必要なことは何か：映画「ドクター」を視聴し、医療者には何が必要か、対人援助とは何かを学ぶ
第2回	10月23日	佐藤恵子	すてきなプレゼンテーション：自分の考えを相手にうまく伝えるために何をどうすべきかを学ぶ
第3回	11月13日	佐藤恵子	みんなでディベートその①：ディベートとは何か、反論の技法を学ぶ
第4回	11月27日	佐藤恵子	みんなでディベートその②：練習論題について、実際に対戦を行う
第5回	12月11日	佐藤恵子	人に動いてもらう：医療スタッフ等に仕事をしてもらうには何が必要かを学ぶ
第6回	1月8日	佐藤恵子	医療面接セミナー：ロールプレイ、模擬患者とのセッションを通じて、患者への対応のありようを学ぶ：
第7回	1月22日	佐藤恵子	コーチング：患者やスタッフの自主性を引き出し、力を発揮してもらうためのスキルを学ぶ

N006 臨床遺伝学演習(ロールプレイ演習)

後期 遺伝カウンセラーコース限定必修

授業日時:	木曜日 5 時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	富和清隆(コースディレクター)・澤井英明(コースディレクター)・浦尾充子(コースディレクター) 沼部博直・小杉真司
コースが行われる場所:	G棟3階 演習室
主担当教員連絡先:	富和清隆: G棟 211 号、9490、E-mail: tomiwa@pbh.med.kyoto-u.ac.jp 澤井英明: G棟 205 号、9496、E-mail: sawai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp 浦尾充子: G棟 205 号、9492、E-mail: urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp オフィスアワー(水、木、金)

I. コースの概要

臨床遺伝学で学んだ事項に関連した具体的なテーマ(症例)を 2 週間程度前に提示し、クライアント役として模擬患者(SP)(あるいは遺伝カウンセラーコース2回生)、院生の担当者として、クライアント・サポーター(CL)役・カウンセラー(GC)役を決め、打合せを実施する。当日は、ロールプレイとディスカッションを行う。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。

III. 教育・学習方法

ロールプレイ演習

IV. 学習資源(演習の準備と流れ)

- 初回打合(2 週間程度前)テーマ、症例確認: 教官、院生(CL 担当、GC 担当)で。題材、学習目標を確認。SP、院生の予定、都合により変更も可
- 第2回打合(1週間前木曜 15-16 時を原則)背景と細部決定: 教官、院生(CL 担当、GC 担当、SP)で場面設定の確認。教官、CL 担当、SP で背景・相談の詳細を決定。CL 担当は 2 種類(GC 用、SP 用)のプリント準備
- 最終打ち合わせ(当日(16-16 時半)): 教官、担当院生、SP
- 当日資料配布: CL 担当(受付段階での提示、場合により詳細な家系図)、GC 担当(疾患に関する資料等)
- ロールプレイ実施、討議: 全員、まとめ: CL 役、GC 役、SP、教官
- 記録: クライアント担当(参加教官へ提出記録)、オブザーバー担当(映像ファイルサーバへ)

V. 学生に対する評価方法

演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する

VI. その他メッセージ

コース予定・内容

第1回	10月1日	富和	ロールプレイの行い方	ロールプレイの目的、方法と意義について
第2回	10月8日	富和	フォンレックリングハウゼン病	皮膚に限定した病態であるが、小児期より気になっており、成人後に遺伝性疾患であるとわかったため、将来の妊娠での子供への影響が心配なケース。
第3回	10月15日	澤井	習慣流産	妊娠初期に3回続けて流産したケースについて、流産の原因や次回妊娠での対応、必要であれば遺伝学的検査その他の検査についても対応する。着床前診断についても聞かれたので対応が必要となった。
第4回	10月22日	富和	進行性筋ジストロフィー	進行性筋ジストロフィー症と診断された兄を持つ女性についての対応。保因者であれば罹患児を妊娠する可能性があるケースへの対応。
第5回	10月29日	沼部	ターナー	思春期をすぎても無月経で来院して、性染色体検査でターナー症候群と診断されたケースに診断の告知、疾患の説明、今後必要な治療について対応する。
第6回	11月5日	富和	脊髄小脳変性症	夫が同疾患と診断された妻と子。遺伝的なものであれば、表現促進現象により子により早期に発症し重症化すると言われたことから、心配になった。
第7回	11月19日	富和	筋強直性ジストロフィー	初回妊娠の子が出生直後に同疾患で死亡した女性。遺伝子検査で保因者と診断されており、次回妊娠での再発を心配。男児に発症するので、女兒希望。
第8回	11月26日	浦尾	電話対応演習	電話予約、問合せ、電話によるフォローアップなどの演習を実施する。
第9回	12月3日	小杉	HNPCC	家系内に40～50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応。
第10回	12月10日	澤井	軟骨無形成症	本人が同疾患の大学生の女性。小児期より低身長があつて治療を受けていた。両親より大学入学の時に遺伝性疾患であると知らされた。両親が正常であるので遺伝性とは思っておらず、将来の結婚や妊娠について心配になり来院した。
第11回	12月17日	富和	ミトコンドリア脳筋症	ミトコンドリア遺伝子異常の代表的疾患MELASと診断された母を持つ兄弟の相談。ミトコンドリアのヘテロプラスミーや母系遺伝の説明。
第12回	12月24日	沼部	ダウン症	ダウン症を出産した夫婦に対して、ダウン症の症状と将来の療育、発症の仕組みと次回妊娠での再発率等について対応する。
	1月7日	(予備日)		
第13回	1月14日	富和	脆弱X症候群	3歳の男児が脆弱X症候群と診断された両親。この子の次に0歳の女兒がいるが、男児の今後の経過と女兒が同疾患を罹患する可能性について。
第14回	1月21日	沼部	マルファン症候群	同疾患と診断された未婚女性が遺伝性について心配。結婚と妊娠および本人の健康維持も含めて説明を行う。
第15回	1月28日	澤井	近親婚	いとこ同士の交際中のカップルで結婚予定。双方の親が遺伝的なリスクを懸念している。祖父がフェニルケトン尿症。発症のリスクが心配で結婚は決めかねている。

H018 医療倫理学概論

後期 臨床研究コーディネータコース必修・MPH 選択

授業日時:	水曜日 5・6時限
担当分野:	遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
担当教員:	小杉真司(コースディレクター) 佐藤恵子・沼部博直・澤井英明・浅井篤・山崎康仕
コースが行われる場所:	G棟3階 演習室
主担当教員連絡先:	小杉真司: G棟 310 号、内線4647、E-mail:kosugi@pbh.med.kyoto-u.ac.jp 佐藤恵子: G棟 205 号、内線9491、E-mail: kesato@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

I. コースの概要

医療技術の進展にともなって生じる臨床上的問題、臨床研究実施上の問題の検討を行う。「自ら問題を考え、解決の方策を探り、臨床で実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする。

II. 学習到達目標(このコース終了時までには習得が期待できること)

1)医療倫理学の基礎を理解する

- 医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利や医師の義務を理解する

2)倫理的問題の対処方法を習得する

- 問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する
- 議論を通じて解決の道筋をたてる
- 臨床での実践方法を考える

III. 教育・学習方法

講義と演習(討論を含む)

IV. 学習資源

配布するハンドアウトなど

V. 学生に対する評価方法

研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。

自主研究発表(最後の2回で実施): 医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間(発表+ディスカッション)は、発表者の数に依存しますが、30-45分程度です。(原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布もお願いします)。聴講や他の専攻や研究科からの受講の場合も必須です。

VI. その他メッセージ

事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります

人間健康科学系院生の受講・履修 上限 10 人まで可能。ただし、上記の条件を満たす場合、希望者は全員かならず履修のこと

コース予定・内容

第1回	10月7日	小杉	倫理委員会	倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織、人材養成、各種倫理指針などについて考える
第2回	10月14日	山崎	法と倫理	道徳・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える
第3回	10月21日	澤井	産婦人科医療と倫理	不妊治療、代理母、再生医療など産婦人科関連の幅広い課題についての倫理問題を考える
第4回	10月28日	沼部	小児科医療と倫理	小児医療における代諾、重症障害新生児の治療、治療拒否と虐待などの問題点について考える
第5回	11月4日	浅井	終末期医療	治療の中止、延命治療、安楽死、尊厳死、高齢者医療、DNR オーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える
第6回	11月11日	小杉	移植医療と倫理	脳死からの臓器移植、生体肝移植、心臓死および生体からの膵島移植などの問題点を事例に基づいて考える
第7回	11月18日	佐藤	事例検討：病名の告知をどう考えるか	がんの告知の是非をテーマに、患者の権利やインフォームドコンセントについて学ぶ
第8回	11月25日	浅井	医療資源配分の問題	
第9回	12月2日	佐藤	事例検討：延命治療の問題を考える	無駄な延命治療を例に、倫理的な問題を考え、方策を立てる方法を学ぶ
第10回	12月9日	佐藤	事例検討：遷延性意識障害の患者の問題を考える	遷延性意識障害の患者の対応について米国の事例をもとに考え、日本での対応を考える
第11回	12月16日	佐藤	事例検討：重症障害新生児の治療停止の問題を考える	重症障害新生児の治療拒否を例に、問題を考える
第12回	1月6日	佐藤	事例検討：出生前診断・着床前診断の問題を考える	出生前診断や着床前診断の倫理的、社会的問題を考える
第13回	1月13日	佐藤	事例検討：医療者間で意見が違ふとき プロフェッショナリズムとは	患者の対応について、医療者で意見が異なるとき、どのような対応をすべきかを考える プロフェッショナルとは何か、どうあるべきかを考える
第14回	1月20日	佐藤	自主研究発表	履修院生による自己テーマについての研究発表
第15回	1月27日	小杉	自主研究発表	履修院生による自己テーマについての研究発表